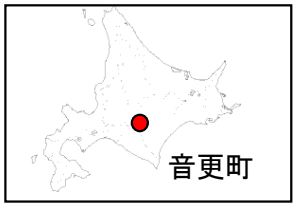
音更町地域公共交通活性化協議会　平成28年3月2日設置



概　要

音更町は、北海道の東部、十勝平野のほぼ中央に位置し、南は十勝川を隔てて帯広市及び幕別町に、北は士幌町、西は芽室町及び鹿追町、東は池田町に接している。高度成長期以降、恵まれた立地条件を背景とする住宅開発の進展とともに人口は増加を続け、現在では北海道内の町村の中では最も多い人口を有しているが、平成 22 年 12 月の 45,707 人をピークに減少傾向にある。 総面積は 466.02㎢で、令和 4 年 3 月末現在の人口 43,212 人のうち、約9割が市街地に居住している一方、広大な農村地域に残りの1割の住民が低密度に分散して居住している。

第6期音更町総合計画において、まちの将来像として掲げている「みんなが住みよい 選ばれるまち おとふけ」の実現に向け、町内における公共交通の実態や町民のニーズを明確にし、より効率的で利便性の高い持続可能な地域公共交通体系の構築が求められる。

○地域公共交通の現況

- 予約制乗合タクシー（農村部⇔町内市街地）
- コミュニティバス（一日３便、２台体制）
- スクールバス（１２路線）
- 十勝バス株式会社（町内４路線）
- 北海道拓殖バス株式会社（町内１２路線）

○地域公共交通の課題

- 交通サービス維持のための財政負担
- 交通サービスの利便性向上、快適性の確保
- 各種まちづくり計画や十勝地域広域公共交通計画と連携、整合性を図った公共交通

○調査の主な内容

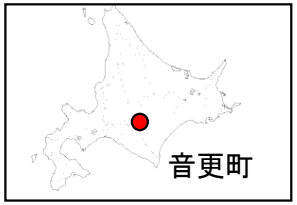
- 地域概況の更新
  （人口や公共交通運行状況など）
- 町民ニーズ把握調査
  （公共交通アンケート）
- 町民意見交換会
  （町民ワークショップ）
- 町内交通における路線再編案の検討
- 地域公共交通計画（案）の作成

○地域公共交通活性化協議会開催状況

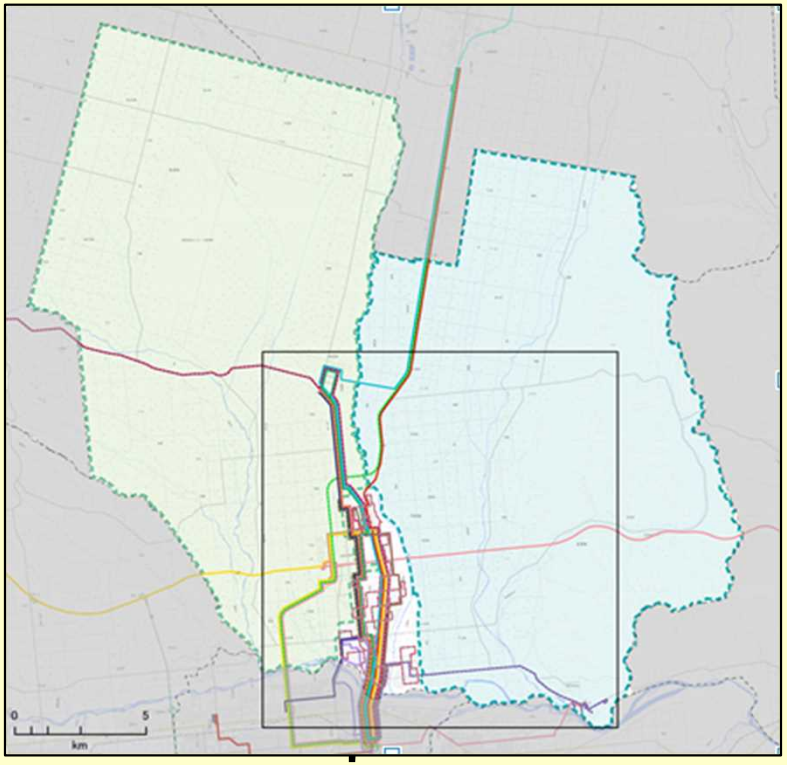
- 令和4年4月18日　第1回協議会開催
  事業報告及び収支予算案、地域公共交通計画の方向性、計画策定調査の実施について
- 令和4年6月22日　第2回協議会開催
  協議会規約の一部改正、フィーダー系統確保維持計画について
- 令和4年11月1日　第3回協議会開催
  公共交通計画策定調査の結果報告、網形成計画の評価結果報告、地域交通計画の方向性について
- 令和4年11月24日　第4回協議会開催
  地域公共交通計画（素案）について、パブリックコメントの実施について
- 令和4年度12月16日～令和5年1月12日　第5回協議会開催（書面会議）
  地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

音更町地域公共交通活性化協議会

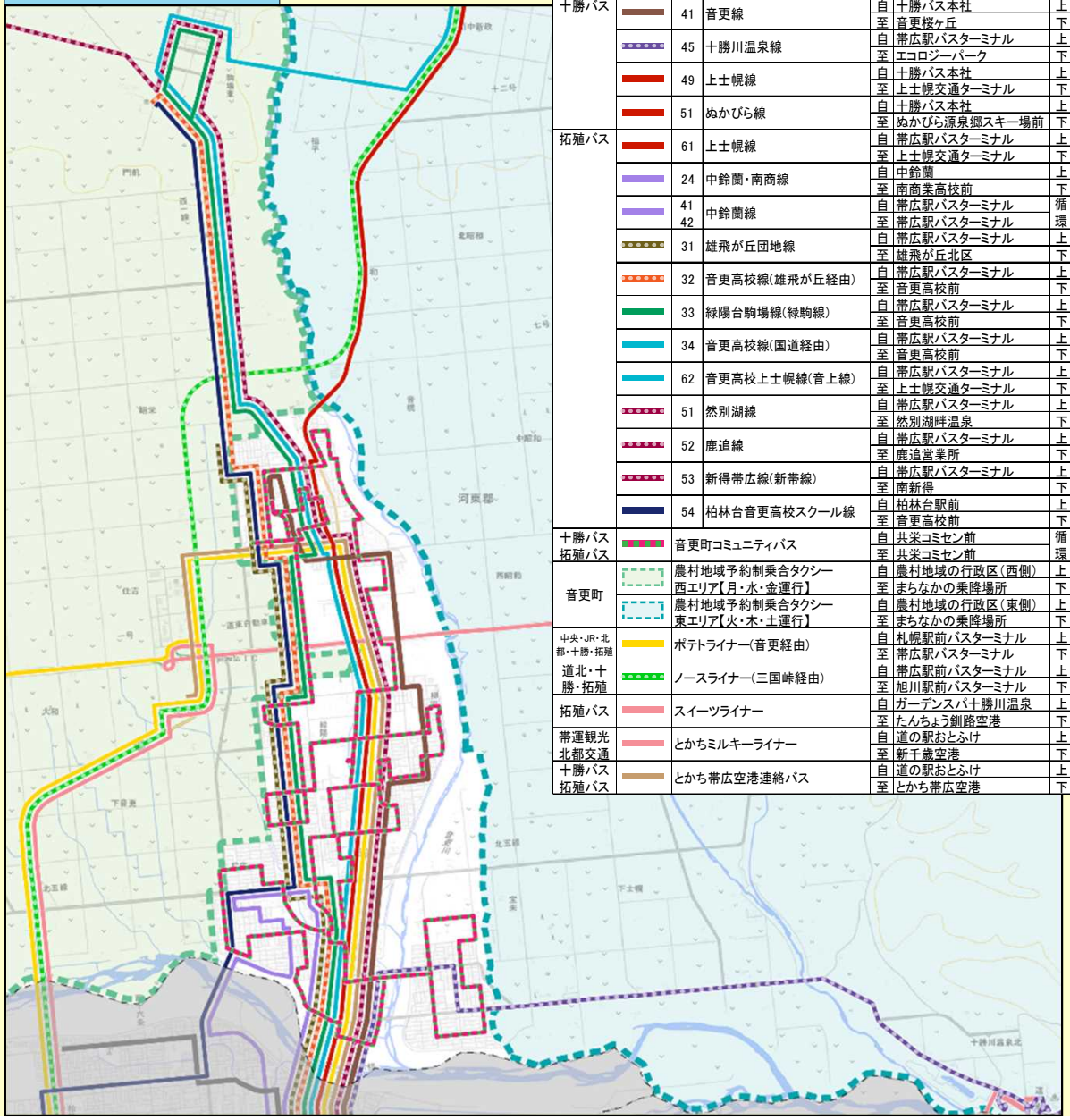
平成28年3月2日設置



公共交通の概要



音更市街地拡大図



運行主体	凡例	路線名		区間			便数		運行曜日	所要時間
十勝バス		41	音更線	自	十勝バス本社	上	18便		毎日	70分
				至	音更桜ヶ丘	下	16便			72分
		45	十勝川温泉線	自	帯広駅バスターミナル	上	8便		毎日	38分
				至	エコロジーパーク	下	9便			43分
		49	上士幌線	自	十勝バス本社	上	4便		毎日	110分
				至	上士幌交通ターミナル	下	4便			110分
		51	ぬかびら線	自	十勝バス本社	上	4便		毎日	139分
				至	ぬかびら源泉郷スキー場前	下	4便			139分
拓殖バス		61	上士幌線	自	帯広駅バスターミナル	上	6便		毎日	73分
				至	上士幌交通ターミナル	下	5便			75分
		24	中鈴蘭・南商線	自	中鈴蘭	上	1便		月～金	48分
				至	南商業高校前	下	1便			45分
		41 42	中鈴蘭線	自	帯広駅バスターミナル	循環	13便		毎日	44分
				至	帯広駅バスターミナル					
		31	雄飛が丘団地線	自	帯広駅バスターミナル	上	16便		毎日	30分
				至	雄飛が丘北区	下	18便			35分
		32	音更高校線(雄飛が丘経由)	自	帯広駅バスターミナル	上	7便		毎日	37分
				至	音更高校前	下	7便			38分
		33	緑陽台駒場線(緑駒線)	自	帯広駅バスターミナル	上	4便		月～金	38分
				至	音更高校前	下	4便			42分
		34	音更高校線(国道経由)	自	帯広駅バスターミナル	上	1便		月～金	34分
				至	音更高校前	下	0便			0分
		62	音更高校上士幌線(音上線)	自	帯広駅バスターミナル	上	3便		月～土	83分
				至	上士幌交通ターミナル	下	4便			82分
		51	然別湖線	自	帯広駅バスターミナル	上	4便		毎日	106分
				至	然別湖畔温泉	下	4便			102分
		52	鹿追線	自	帯広駅バスターミナル	上	3便		毎日	60分
				至	鹿追営業所	下	3便			62分
		53	新得帯広線(新帯線)	自	帯広駅バスターミナル	上	4便		毎日	105分
				至	南新得	下	4便			102分
		54	柏林台音更高校スクール線	自	柏林台駅前	上	1便		月～金	35分
				至	音更高校前	下	0便			0分
十勝バス 拓殖バス		音更町コミュニティバス		自	共栄コミセン前	循環	6便		毎日	129分
				至	共栄コミセン前					
音更町		農村地域予約制乗合タクシー 西エリア【月・水・金運行】		自	農村地域の行政区（西側）	上	2便		月・水・金	－
				至	まちなかの乗降場所	下	2便			－
		農村地域予約制乗合タクシー 東エリア【火・木・土運行】		自	農村地域の行政区（東側）	上	2便		火・木・土	－
				至	まちなかの乗降場所	下	2便			－
中央・JR・北都・十勝・拓殖		ポテトライナー(音更経由)		自	札幌駅前バスターミナル	上	4便		毎日	235分
				至	帯広駅バスターミナル	下	4便			225分
道北・十勝・拓殖		ノースライナー(三国峠経由)		自	帯広駅前バスターミナル	上	1便		毎日	265分
				至	旭川駅前バスターミナル	下	1便			265分
拓殖バス		スイーツライナー		自	ガーデンスパ十勝川温泉	上	1便		毎日	155分
				至	たんちょう釧路空港	下	1便			145分
帯運観光 北都交通		とかちミルキーライナー		自	道の駅おとふけ	上	3便		毎日	130分
				至	新千歳空港	下	4便			130分
十勝バス 拓殖バス		とかち帯広空港連絡バス		自	道の駅おとふけ	上	7便		毎日	88分
				至	とかち帯広空港	下	7便			72分

音更町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

概況調査

◆調査概要

町内における人口等基礎的データや十勝地域公共交通計画策定に向けた調査資料を参考に、人口や公共交通の現況を把握。

◆調査結果（図1）

・農村部、市街地どちらにも高齢化が高いエリアがある。
・都市機能施設が市街地に集積しており、農村部居住者の移動手段の確保は重要である。
・スクールバスの混乗利用は、令和2年度以降一般利用者がいない。
・新型コロナウイルスの影響により、路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーの利用者が減少している。
・乗合タクシーの利用登録者及び利用者のほとんどが70代以上である。

項目	現状・問題点
人口	・総人口の減少進行及び少子高齢化の深刻化
	・農村部における人口密度が低い散居形態であり、高齢化率も高い
	・農村部のみならず市街地でも高齢化率が高いエリアがある
	・運転免許非保有者が町内の各地区にまばらに存在している
都市機能施設	・都市機能施設は「市街地」に集積
	・農村部居住者の移動手段の確保は今後とも重要
	・令和4年4月に「道の駅おとふけ」が移転開業
	・「道の駅おとふけ」と「市街地」を往復するとかち帯広空港連絡バスが運行している
通学（スクールバス）	・スクールバスについて、令和2年度以降、一般利用者はいない状況
路線バス	・新型コロナウイルスの影響により、令和2年度以降、利用者は減少傾向
コミュニティバス	・新型コロナウイルスの影響により、令和2年度以降、利用者数は大きく減少したが、令和3年度は復調傾向（令和元年と比較し減少は2割程度）
	・ほとんど利用されていないバス停（1人以下）がある
乗合タクシー	・新型コロナウイルスの影響により、令和2年度以降、利用者が令和元年度に比べ約2割減少している
	・乗合タクシーの利用登録者は約9割が70代以上
	・乗合タクシーの実利用者のほとんどが70代以上
	・利用登録をしていても、実際に利用している人は限られている
経費	・町の移動支援に要している経費は、年間1億4千万円を超えている

図1：概況調査から見える現状と問題点

町民ニーズ把握調査

◆調査概要（図2）

町内の地域公共交通のあり方を検討するため、4種類の公共交通アンケート調査を4月～7月の期間で実施。

実施調査	調査方法	調査対象	調査時期	回収票
コミュニティバス利用者アンケート調査	(1) 次回乗車時にバス内のアンケート回収箱に入れる (2) 同封の「返信用封筒」に入れて、郵送(切手は不要) (3) QRコードから町HPにアクセスしてご回答	コミュニティバス利用者	令和4年4月26日(火)～7月21日(木)	137票 配布数260票 回収率52.7%
町民コミュニティバス等アンケート調査	(1) 同封の「返信用封筒」に入れて、郵送(切手は不要) (2) QRコードから町HPにアクセスして回答	コミュニティバスの運行エリア内に居住する18歳以上の町民1,500人※1	令和4年4月26日(火)～5月22日(日)	744票 配布数1,500票 回収率49.6%
乗合タクシー登録者アンケート調査		農村地域予約制乗合タクシーの利用登録者270人※2		153票 配布数270票 回収率56.7%
乗合タクシー登録者アンケート調査		農村地域予約制乗合タクシーの運行エリア内に居住する乗合タクシー未登録者のうち、50歳以上の町民400人※1		201票 配布数400票 回収率50.3%

※1ご自身が回答困難な場合は、ご家族が回答
※2ご自身が回答困難な場合は、その旨を記載し返送

図2：アンケート調査の内容

音更町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

町民ニーズ把握調査

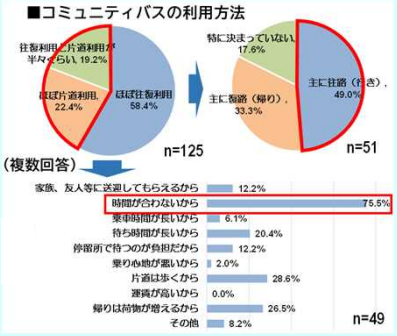
◆アンケート結果から見える現状と問題点

1 コミュニティバスについて

・コミュニティバスのサービス改善を求める声が多い
・「時間が合わないから」との理由で、片道利用をしている
・バス停の位置について見直しの意見がある
・町内交通で「道の駅おとふけ」までの移動を求める声がある

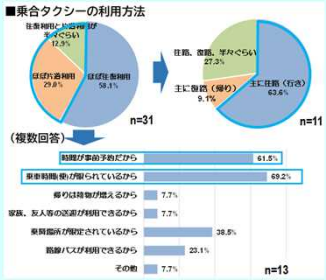
■コミュニティバス(町民)の意見・要望

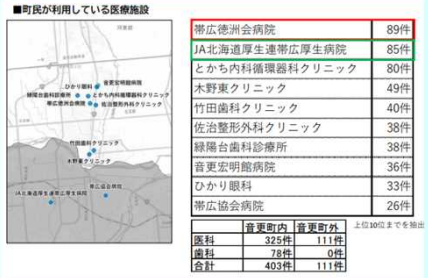
カテゴリー	回答件数	内容
バス停に対する意見	13件	・バス停を増やしてほしい（風乃舞温泉など） ・エーコープ前にバス停ができ助かっている ・致年前の要望に合わせて作られているので利用者がいないバス停は見直してほしい
運行コースに対する意見	12件	・道の駅に行くコースがほしい ・十勝川温泉に行くコースがほしい ・ほとんど利用者がいないところを迂回りしている
運行時間帯に対する意見	11件	・ちょうどよい時間帯がなく利用しにくい ・帰りの便が時間が合わない ・1便より早い時間帯に運行してほしい



2 乗合タクシーについて

・「乗車時間(便)が限られているから」等の理由で片道利用をしている
・乗合タクシーに不便を感じていると指摘する声がある
・77．3%が今後、乗合タクシーを「利用する可能性がある」と回答しており、将来の利用需要が見込まれる





帯広徳洲会病院	89件
JA北海道厚生連帯広厚生病院	85件
とかち内科循環器科クリニック	80件
木野東クリニック	49件
竹田歯科クリニック	40件
佐治整形外科クリニック	38件
緑陽台歯科診療所	38件
音更宏明館病院	36件
ひかり眼科	33件
帯広協会病院	26件

	音更町内	音更町外
医科	325件	111件
歯科	78件	0件
合計	403件	111件

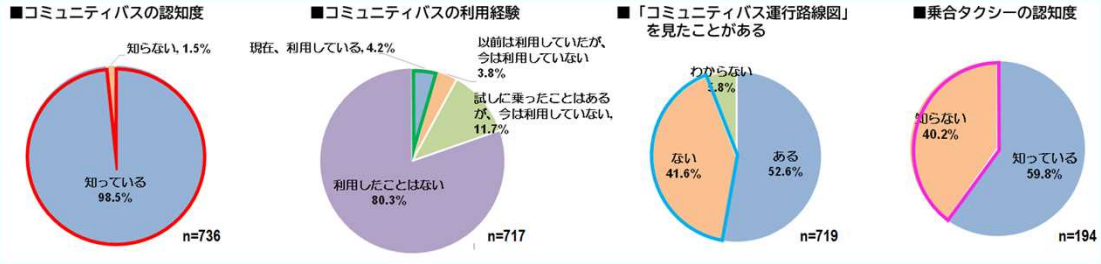
上位10位までを抽出

3 町内移動について

・町民の生活移動の実態として、「帯広市」まで移動している
・町内交通(コミュニティバス)と路線バスの接続性が悪いと指摘する声がある

4 利用促進について

・コミュニティバスの認知度は高いが、実利用者は少ない
・運行路線図を見たことが無い町民が約4割いる
・乗合タクシーの非登録者のうち約4割の人が乗合タクシーの運行を知らない



町民ワークショップ

実施日時・実施場所・対象者・参加人数・事前アンケート

実施日時	実施場所	対象者	参加人数	事前アンケート
令和４年　８月２４日（水） １３：００～１５：００	総合福祉センター大集会室	民生児童委員	２０名	配付枚数９４部 ３９部(回収率:41.5%)
令和４年１０月１１日（火） １４：３０～１５：００	総合福祉センター中集会室	老人クラブ連合会	１８名	配付枚数２４部 １８部(回収率:75%)

◆実施概要

移動に制約がある高齢者の皆さんの公共交通の利用実態などを把握し、計画の内容に反映させることを目的に、音更町の民生児童委員及び老人クラブ連合会の皆さんを対象にした町民ワークショップを8月と10月に実施。

◆調査結果

1 コミュニティバスについて

・コミュニティバスの乗降場所について、現在のバス停以外で自由に乗り降りをしたいとの意見がある
・コミュニティバスのサービス改善（乗車時間や運行ルートの見直し、バス停に椅子の設置等）を求める声が多い

2 乗合タクシーについて

・乗合タクシーに不便を感じていると指摘する声がある
・乗合タクシーを利用したい人がいるが、予約に対して不安があるとの意見がある

■ワークショップの様子

3 町内移動について

・町民の生活移動の実態として、「帯広市」まで移動している

4 利用促進等について

・高齢者の免許返納後の不安は大きい
・居住地区によって、通学に伴う移動負担に差が生じている
・路線バスなどの公共交通の利便性が低いため、高校への通学は親が送迎していることもある

音更町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画の計画策定に向けた方針

◆調査事業等の結果を踏まえ、次のとおり課題を整理し、基本理念や基本方針を定め、計画の素案とした。

基本理念

『町民の思いをつないだ公共交通ネットワークがつくる　住みよいまち　おとふけ』

町内移動の課題

［課題１］
町民の移動ニーズに即したコミュニティバスの運行内容などの改善

町内移動の課題

［課題２］
農村部における生活交通の維持と運行内容の改善

利用促進の課題

［課題３］
公共交通の利用に関するわかりやすい情報の提供ときっかけづくり

町外移動の課題

［課題４］
町民の広域的な移動を支援する地域間幹線系統の維持と町内交通とのスムーズな乗り継ぎ

○基本方針１ 町民の移動ニーズに即した公共交通の利便性の向上

施策・取組内容

①コミュニティバスの利便性向上
・コミュニティバスの乗降場所や便数、運行ルート、運行時間帯、バス停の環境などを改善する。

②高校生の通学に係る移動手段の利便性向上の検討
・高校生の通学に係る現状と移動手段の充実などのニーズを把握し、財政負担などを含めた実行可能な利便性向上の方法を検討する。

③「道の駅おとふけ」への移動手段の充実に向けた検討
・既存の移動手段を活用した道の駅までの移動手段の充実化を検討する。

④より利便性の高い新たな移動手段に係る導入可能性の検討
・本町の実態に即した最新技術による新たな移動手段の導入可能性を検討する。

○基本方針２　散居形態にある農村部居住者の町内移動を支援する生活交通の維持と利便性の向上

施策・取組内容

⑤農村部と市街地を結ぶ移動手段の継続的な運行
・乗合タクシーの運行を継続するとともに、利便性向上を目指して運行内容を改善する。

○基本方針３　地域公共交通の利用促進に向けた町民の意識醸成

施策・取組内容

⑥町民に対するわかりやすい情報提供の推進
・高齢者にもわかりやすい音更町バスマップに更新する。・より利用しやすく、わかりやすくなるようコミュニティバス運行路線図を更新する。・音更町バスマップやコミュニティバス運行路線図などに、利用するバス停と時間を記載する「マイ 時刻表」を掲載する。・公共交通の具体的な活用事例を紹介する。

⑦公共交通の利用につながるきっかけづくり
・町民を対象にバスの乗り方教室や勉強会などのイベントを実施し、ICTや路線図を活用した路線検索の方法などを周知する。・買い物や通院時のコミュニティバスや乗合タクシーの利用を促進するサービスなどを検討する。・上記のイベント時や町民に向けたアンケート調査を実施する際に、コミュニティバスの「試乗券」を配布するなど、公共交通を利用する機会を提供する。

○基本方針４　町民の広域的な移動を支援する地域間幹線系統の維持

施策・取組内容

⑧町民の広域的な移動の確保に向けた地域間幹線系統の維持
・町内から帯広市までをつなぐ路線バスの維持に努める。・町内交通と路線バスがスムーズに乗り継ぎできるようにする。・十勝総合振興局が策定する「(仮称)十勝地域公共交通計画」と連携し、利便性の高い広域的な地域公共交通網を検討する。

音更町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画の計画策定に向けた方針

◆計画対象区域：音更町内全域

◆計画期間：令和5年度から令和9年度

◆今後、令和4年12月23日（金）～令和5年1月23日（月）の期間でパブリックコメントを実施し、協議会の検討を経て、将来に繋がるような音更町地域公共交通計画として令和4年度内に最終的にまとめる。

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

・事業は、計画どおり実施されている。
・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
・今後、地域公共交通計画策定の際は、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。